

スポーツ振興支援員
きやま ゆうた
歸山 雄太さん

着任：令和5年2月(1年目)
出身：苫小牧市



—これまでの経歴について教えてください。

東洋大学を卒業後、企業や茨城県から支援を受けながらスピードスケートの選手として、冬季オリンピックへの出場を目標にして帯広市を拠点に6年間活動していました。日本代表として3回の世界大会への出場や国民体育大会での優勝経験はありますが、オリンピックの出場はかなわず、競技者生活に区切りをつけました。地元の苫小牧市に戻り、一般企業へ入社し、働きながら外部指導者として子どもたちにスケートを教えていました。

—なぜ厚真町に来ようと思ったのですか？

これまでの半生をスピードスケートの競技者として過ごしてきましたので、この経験を生かして、スポーツに携わる仕事がしたいと思っていました。知人から厚真町でスポーツ振興支援員を募集していることを聞いて、ぜひやってみたいと思ったので応募しました。

—厚真町の印象について教えてください。

公共施設に行くと、たくさんの人に会うことが出来ます。町の人と触れ合う機会に恵まれ、交流しやすい雰囲気を感じています。あつまスタジアムやスポーツセンターをはじめ、施設や環境が充実している印象です。

—着任して間もないですが、どのようなことから始まりますか？

まず、町のスポーツ環境を知るために情報を収集していきます。スポーツに関する活動に積極的に参加して、関係者や町の人たちとの交流を図っていきます。業務の中では中学校の運動部の部活動を外部指導者に移行する「地域移行化」に向けて、人材を確保するための活動やシステムづくりの準備を始めるところです。

—3年後はどうなっていたらいいでしょうか。

さらにスポーツ施設や環境の充実を図り、幅広い世代の方々が気軽にスポーツが楽しめる場をつくることが目標です。厚真といえば「スポーツが盛んな町」という印象を持ってもらえるようにしたいです。将来、町内からオリンピック選手やオリンピックメダリストを輩出することが出来たら嬉しいです。スポーツ環境に関する情報をSNSで発信することで、合宿の誘致なども出来たらいいなと思っています。

地域おこし協力隊

厚真町で活動している地域おこし協力隊をご紹介します！

現在活動している協力隊〈2月末現在〉

農業▷9人 教育魅力化▷3人 スポーツ▷1人
起業型▷6人 協働型▷14人



起業型地域おこし協力隊
わかみ だい
和光 大さん

着任：令和4年4月(1年目)
出身：横浜市

—これまでの経歴について教えてください。

父の影響を受けて、8歳ごろからサーフィンを始めました。中学校を卒業後、プロサーファーをめざし、オーストラリアの高校、サーフィン学科のある専門学校へと進学しました。帰国後、サーフィンのプロ資格を取得し日本各地で行われる大会をまわりました。全日本大会では優勝の経験もあり、世界で通用するプロサーファーになりたいと思いながら活動をしてきました。

しかし、思うように成績が伸びない時期があり、自分が何をしたいのかを悩んだ末、世界一周の旅に出ました。世界のゴミが多いことに気づかされ、環境問題について深く考えるようになり、こういった問題を多くの人に伝えたいと思い、ドキュメンタリー映画を製作して上映会を開催しました。

—厚真町では何をしていますか？

子どもたちを対象にサーフィンのコーチングを行ったり、厚真町で撮影したサーフィンの写真や動画をSNSで発信し、ふるさと納税につなげる準備をしています。

—厚真町に来ようと思ったきっかけは何ですか？

北海道の人たちと出会い、縁が出来たことがきっかけです。浜厚真でサーフィンをしていたこともあり、サーフィンが盛んな厚真町で自分にも何かができると思い、移住を決めました。

—厚真町(北海道)の印象を教えてください。

町は、とても静かな印象です。時間がゆっくり流れている感じがします。浜厚真のビーチにたくさんの車が並んでいる光景に驚き、サーフィンに対する情熱に包まれた場所だと思いました。

—3年後はどうなっていたらいいですか？

自分の武器であるサーフィンの経験を通して、見てきたものや感じたことを伝えることで、若いサーファーが本州や海外へ出て挑戦することへの手助けが出来たらいいなと思っています。サーフィンのレベルアップをめざす人やサーフィンを楽しむ人の役に立てるような活動をしていきます。厚真で写真や動画の個展も開きたいです。